

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

## 広まるインナーサッシ効果

エコポイントでの利用率も高く、施工後に喜ばれる工事に、インナーサッシ取り付け工事がある。

寒い家に嫌気がさしている方や、窓ガラスの結露に悩んでいる方にお薦めするのだが、施工後に喜ばれるのはそればかりではない。

「隙間風が無くなった!」、「道路を走る車の音や風の音が気にならなくなった!」、「サッシ枠の色を変えたので、インテリアテイストがまとまった!」など。

戸建住宅だけではなく、マンションでも断熱効果が高いサッシとして設置が進んでいる。

だが、少し前までは、断熱のために工事をするという意識は薄かったのではないかと思う。

人によって体感温度が違うという目に見えない温度に対して、施工する側も強くお薦めするのにとめらっていた面もある。事例が増えるにつれ、その効果が期待以上であったことや、副産物の効果も大きいことで、インナーサッシ効果が広まっている。

今日も電車の中で、我が



家のインナーサッシ効果をと、とうとうと語っている御婦人がいた。

「人気の無い家に帰ると、外より寒い家の中だったのに、玄関

ドアを開けたら暖かいのよ!」と、感動を隠せない面持ちで話されていた。私はこれが口コミで広がるといふことなのかと思いつつ、「よしよし、そうそう」と心の中でつぶやいた。

窓回りだけではなく、外断熱機能を持つ外壁塗装もある。外壁の塗装の時期が来たのではとお話しても、まだもったいないとか、一年先でもいいのではと思っ

ている方に、断熱効果もありませんとお話すると、とたんに「よし、やろう!」と急展開される。断熱効果に対する期待が、浸透していることを感じる一瞬だ。

省エネは自分のためだけではなく、地球環境としての問題を含んでいる。建物性能だけではなく、家の大きさと家族人数の関係、あ

るいは生活スタイルが大きく影響する。

本当は同じ家なら出来るだけ大勢で、なおかつ完全同居型で住む事が、省エネ住宅だといえる。昔ながらの大家族の方が、エネルギー削減効果が高い事は、数値の上でも明らかになっている。

しかし、残念ながら日本の同居率はほとんど減少し、二世帯住宅でも省エネとはいえない完全分離を求めめる方が多い。おひとり様の単身住宅は増加の一途である。

今年に入って、「低炭素社会の実現を先導するリフォームの役割」と題した講演会やシンポジウムが多いのだが、なかなか一筋縄ではないかない問題だと感じつつ講演している。

西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。